



# ～一口色仕掛け～ 将棋プロ昇段リーグ

CV：こやま はる  
表紙：うらすけ  
台本：ブリッツクリーク

バイノーラル  
成人向け  
音声作品  
イヤホン  
ヘッドホンを  
ご利用ください



## 対局前の挨拶

※タイトルコール

「対局前の挨拶」

「あのっ、プロ確實って言われるんですよね？握手して貰つていいですか？はいっ…うわ～つ感動」

（クスツッ：凄いドギマギしてる。これはチヨロそゝwもう少し毒撒いとこ～つと）

「いきなり対戦出来るつて聞いて期待に胸を膨らませてたんです」

胸を強調する

「ええ……胸を……」

（見てる見てる……）

「どうですか？」

胸に見惚れる主人公に胸を強調して押し当てる

「ねえ……どうなんですか？」

焦る主人公にすつとぼける

「ん？ どうしたんですか？ 今日の調子を聞いてるんですけど……」

適当に答える主人公

「あ、 そうなんですね。 顔が真っ赤だから風邪なのかと思つて心配しちゃいました。 クスツ」

※耳元で小声

「恥ずかしがり屋なんですね。 そういう人好きです」

# 序盤戦

※タイトルコール

「序盤戦」

指す音+対局時計を押す音 二回

(ふふつ……私が気になつて仕方ない見たいね)

指す音+対局時計を押す音 二回

(んー……でもやっぱり強い……盤面を見てる時間より私の胸と太ももを視線が行き来してるのは、形勢はこっちがやや不利……かな。なら…)

胸元やスカートをバサバサする

※小声の独り言

「ふうーー……あつついなあゝこの部屋」

(ほら、やせ我慢しないの。もつと見てごらん。好きでしょ？前屈みで盤面のぞき込んであげると～……)

※考える

「んく……」

(谷間がしつかり見えちやうよね～)

指す音+対局時計を押す音

(クス……馬鹿みたいに口開けて……自分の手番になつた事にも気付いてない見たいね……ほら、もつと下のほうもじっくり見てると良いことがあるかもよ。例えば～、膝元を搔くふりして、ほら……スカートの裾がずり上がりつくよ……あ……そろそろ見えそう……ああ……見えちゃいそう……ああ～……残念、もう少しで見えたのにね……でも、ずっと見てたらいつかは見えるかもよ～ w)

# 中盤戦

※タイトルコール

「中盤戦」

指す音+対局時計を押す音

※焦り気味

（んくく手強い……時間は大分削つたけど逆転出来てないよね……いや、それどころか離され  
てる？しそうがない。こうなつたら）

※咳払い

「ん、んんつ」

（フフ：そう、よく見てなさい。いくよ：さあ：スカートの裾がずり上がりつていって……  
ほくら見えた！さつきからチラチラ見たがつていたパンツ。見えたでしょ？気に入つた？）

(よし w ハアハアしちやつて……もうひと押しみたいね。もつともつと興奮して馬鹿になっちゃいな。もつと見せてあげるから。ほら、ふふふ、奥まで見える?……ん?あーあ、反応しちゃったw どうするつもり?)

(顔背けて必死にエツチな気持ちを振り払おうとしてる w w)

股間を抑えながら席を立つ主人公

(あらまたトイレ? そんなに前屈みになつて w 時間が切れる前に帰つてこれるかな?)

# トイレの個室

※タイトルコール

「トイレの個室」

個室トイレに入ろうとして主人公に對して滑りこみ侵入し鍵をかける。

「ちよつと、ふふつ……何焦つてるの、怪しいなあ！」

「スマホで将棋ソフト使う気でしょ？だつてこれでトイレ3回目だよ？明らかに怪しいよ。え？嘘。ここのはうが集中できる訳ないでしょ。盤面を前にしたほうが考えられるに決まってるし、そんな言い訳きかないよ」

反論する主人公

「確かに、事前に電子機器類はチエツクして預けてるはずだけどプロの対局じやないから厳密なチエツクがじやないし、隠し持つてるんじやないの？それともこの個室トイレのどこかに隠

し場所があるとか？少なくとも、3回離席なんて明らかに怪しいから私が連盟の人と言つたら  
調査の対象になると思うよ」

### ※挑発的に

「証明されたら一生プロ入りなんて無理だろうね。たとえ証明されなくとも、みくんなに疑わ  
れちゃうよ？今までの強さは全部ソフトを不正に使つてたんじやないかって。可哀そう w  
ーっと将棋一筋に打ち込んできたのに 今日一日でぜえくんぶ パー w」

### 必死に反論、弁明する主人公

「ふうくんそんなに言うなら、私が全身調べてもいいよね？何か怪しい物持つていなか」

### 了承する主人公

「じゃあ、両手の平を上に向けて……ふむ……ふむ……うん、手には何も持つて無いね。じゃ  
あ万歳して、そう、そのまま後ろ向いて壁に手をついて……そう……」

後ろから抱き着く

### ※耳元

「ちやーんとくまなくチエツクするからね。胸ポケットにはないわね……ふふつ……びくびく震てるよ……ドキドキ早いし……やつぱり何か持つてバレないか心配なんじやないの？これはちゃんと調べないとね～……」

### ※耳元

「スマホ隠してるんでしょ？本当に隠してないの？おかしいな……それなのに、こんなにビクビクしちゃうなんてさ……お尻ポケットにもなし……とじやあ……あ……怪しいの見つづけ前ポケットがこんなに膨らんで……こんなところに隠すなんて考えたね。あつ、ほら手で隠そうとしてやつぱり不正してたんだ」

「じゃあチエツクしても良いよね。ほら両手は壁について」

ズボンのベルトを外し降ろす

「あらあ？ふふ……」これは何？ねえ？」

※色っぽく

「エツチ」

「真剣勝負の最中に何でこんなになつてるのであるのかなあ？ねえ？これじゃ集中できないよねえ、ん  
しょうがないなあ！」

※怪しい囁き

「スツキリ…させてあげよつか？」

コクコク

「頷くんじやなくてちゃんと言つて、こんなに硬くなつちゃつたモノをどうして欲しいの？」

「言えないの？ならなんにもしてあげないよ」

「そう……手で？私のこの指で握つて上下に動かすの？こうやつて？」

「そんなに気持ちいい？」

「すぐ）いつ w？おかしくなつちやう？ wねえ？」

（『あつ：あん』って指先でちょっと触つてるだけでよがつちやつてえ w外に聞こえちやう よお）。私のハンドテク凄いでしょ。感じて狂つちやいそうでしょ。そんなウブじやすくぐ虜だよ。ほら、もう透明なお汁が出てきちやつた wこれ覚えちやつたら大変だよ）

（私の魔法の指<sup>ゆびわざ</sup>技に理性もプライドもふつとんじやつて、全部どうでもよくなつちやうよね？ 気持ちイイことだけ……私のことだけ……）

※ここから上から目線になつていく

「でも駄々目、そんな言い方じや……続けてほしかつたらもつとちゃんとお願ひしなさい。心を込めて、ちゃんと敬語で」

「あつ　あつ　じゃなくて　早く言い直しなさい。やめちゃつてもいいの？」

※主人公の気持ちを馬鹿にするように代弁

(ほら、はやく：はやく言わなくちや……心をこめてお願ひしなくちや～w)

「はい、よく言えたわね　じやあ私の指でいゝっぱい気持ちよくしてあ・げ・る」

(そんなに必死にお礼言つちやつてw立場がわかってきたようね。もつと教えてあげるわ)

(私に従う喜びをね。みんなこうやつてどんどん深みにはまつて、私の言うことなんでも聞いてくれるようになつちやうんだから)

「ズボンとパンツを足まで降ろして、手は頭の後ろで組みなさい」

(あ～あ　自分から最大の弱点をさらしちやつて、ふふふ……すぐに将棋でもそうやつて自分から王様を差し出すようになるのよ)

※涎を垂らす

「ええ～」

「はい くちゅくちゅになつたねえ～ いやらしい音がくちゅくちゅいつてる。すごく気持ちよさそうだね。フフツ、ほーーら、ほら。もくもくと気持ちよくなつてきた。頭真っ白……気持ちいい……気持ちいい もつと感じなさい。何も考えなくていいから……ぼおくもつとしていいから……全部私に任せて」

「気持ちよさそうだね……どう？ 気持ちいい？ 天国？」

「ふふ……ほら、私の指使いちゃんと見て……ほら、見なさい。いやらしいびくびくしてると君のがどうされてるのかちゃんと目に、体に焼き付けるの……この指を。私の指の感触が忘れられなくなるように……頭にこびりついて離れないように」

(ふふふ……もうすっかり骨抜きねそのまま蕩けきつてなさい……ん？もうイっちゃうの？だめだめ、だあ～め)

「ん？どうしたの？変な声出して、緩急つけたほうがいいでしょ？それに……すぐ終わっちゃつてもいいの？ずっと気持ち良いのが続いたほうがいいよね？ねえ？」

「じゃあ頑張って我慢しようね。一杯気持ちよくしてあげるから」

くちゅくちゅくちゅくちゅ

「ふふ……ず一つとこのまま気持ち良い状態が良い？それとも、もうビューッて思いつきり射精しちゃいたい？あっ……あっ……」

（ふふつ……自分でもどうして欲しいか訳わかんないよね？アンアンあえぐことしかできないでしょ？イキタイ！でもまだイキたくない もつと……ああでもおもいつきり出しちゃいたい！イキタイ！イキタクナイ！イキタイ！イキタクナイ！あっ……また、イキそう、イッちゃう……）

再びスローに

(だめえ～w)

「ふふつ……よく我慢できてるねえ～偉いぞ～！ふふつ……こんなお汁垂らしながらよく我慢で  
きてるね～ ほら、我慢汁がぐちゅぐちゅぐちゅ言つてるいやらしい音」

(クス……歯食いしばってすごい顔～！我慢しようがしまいが、イつていいかはぜーんぶ私の  
指先一つなのに～w)

「ほーらまだ我慢我慢 まだ駄目！もつとチンチンパンパンになるまで我慢して！」

(あつ イク イケそう！今度こそ本当にっ……はいつ だ～め 苦しいねえ～wイかせても  
らいたいねえ～wイキたくて、イキたくてしかたがない……イキたくて気が狂いそうになつて  
きたかなあ？じやあそろそろ…)

「そろそろイツてもいいよ？ほーら、ほーおらあ～ラア～。良いよ……イつて？ほらつ…ほら  
つ…もうイクツイしく イつちやう きちやうよお～。あつ…あつ…んつ…んつ！」

(だらめつ!)

「あつ…そだ…」

(あゝははは！完璧いゝ！ビクンビクン跳ねてるうゝ！あとひとつすりで確実にイツテたねゝ。  
じやあ、可哀そうだけどここで現実に引き戻してあげましょゝ)

「ねえ…今…何の時間だつけ？確かに大事な大事なプロへの昇段をかけたりーグの初日、私と  
対戦してて、考慮時間は残りひとつ。君の手番でトイレにたつてゝ、それから何分くらいた  
つたかな？」

急いでズボンを着て急いで戻る主人公

※さんざん寸止めしたのに白々しく

「あれゝ？イイのスッキリしちゃわなくて？あとほんの少しなのにゝw」

※シメシメという感じで

「あ～あスッキリ出来ないまま……エッチな気分で絞々としたまま戻っちゃった♪」

手を洗う

「あんな寸止め状態のぼーっとした頭で集中できるのかな～？残り時間ほんどのに～w」  
（ふふ……のまま時間切れまで焦らすのは余裕だけど離席中の時間切れ勝ちじや、怪しいし  
カツコつかないもんね～）

# 終盤戦

※タイトルコール

「終盤戦」

※対局時計の秒読み

九 八 七 六 五 四 三

指す音+対局時計を押す音

(秒読みに入つたのに結構頑張るねえ～…こつちは1時間以上あるから勝てるだろうけど、せつかく持つてきたしこれ使つちゃお～)

ガサゴソ

(じやーん『飲むヨーグルト』これを右手で握つて上下にスリスリ……あれ、これ何の動きだらうね～?忘れられないよね。さつき確かに焼き付けた……思い出しちゃう……さつきの…:気持ちイイの……イキたい……イキたい……)

※色っぽい小声

「んつ……あつ……あん……やだつ……握つたら飛び出しちやつた。胸元も白いのべとべと  
んもおゝ……」

(ふふ……こうやつてドピュツつて出したいでしょ?)

指す音+対局時計を押す音

(ほら、手番だよ考えなくちや……ほくら……考えなきやー! 考えなきやー! でも胸元に……太も  
もに焦点があつて盤面はぼやけて見えちやう w 思い出しちゃいけないのに……駄目なのに……  
頭から離れないよ~ w)

※対局時計の秒読み

九 八 七 六 五 四 三

秒読みにパニックになる主人公

(ほーらあと十秒だよー！頭の中パニックだあー！どうしようどうしようー)

指す音+対局時計を押す音 焦り気味

焦つて致命的なミスをしてしまう主人公

(あーあ……初心者でもしないうなミス……これは致命的だねえ。)

※わざとらしく挑発的に 周りに聞こえないように小声で笑いをこらえながら  
 「あれ？あれれー？そんな手指しちゃうんですかー？いいんですかー？じゃあー……私はこれ  
 で」

指す音+対局時計を押す音

「ほら……こうなつちやいますよ？読めませんでした？プツ・ククク……」

(はい終わり……さつさと投了とうりょうしなさい)

主人公投了

※ゲスく

「え？ 何々？ 何か言いましたか？ ちゃんと聞こえなかつたな？ 投了（とうりょう）は潔く負けを認めてハツキリ大きな声で言わないと……『負・け・ま・し・た』 つて」

涙目で投了する主人公

「クスツッ：ありがとうございます。」

ざわつくまわり

※ウキウキで嬉しそう

(うわあ……周りがざわついて注目してくる♪ クスツテレビでも取材される逸材にいきなり私が勝っちゃうんだもんね♪ もしかして私が取材されちゃつたりして……ふふふ)

## 感想戦

※タイトルコール

「感想戦」

悔しがる主人公

「ねえ、いつまでそうやつてうつむいてるの？感想戦しようよ。たかが一敗しただけじゃない？」応援してるから頑張ってプロになつてね？ほら、元気だして」

にらみつける主人公

「怖あ〜い、そんな目しないで、本当に応援してるよ？だつてえ〜……」

※悪い本性を出す

「私の思うままに操れるワンちゃんがプロになつてくれた方が有利に決まつてるじゃない？当たつたら勝ちを譲つてくれる訳だしさ」

## 反論する主人公

「そう? だつて……ほら……私の指があなたの手にちょっと触つただけで……ほおら、即、勃起 w 思い出しちやうの? ねえ? 君はトイレの中の感想戦しちやつてるのかな? ジヤア……トイレに入つたところから再現して、最善手を さいぜんしゆ 一緒に探す?」

妖艶な雰囲気にのまれる主人公に怪しく手を動かして見せつける

「どうしたの? 震えてるわよ w 怖いの? 私のこの指が……ねえ? 君を狂わせちやうこの指が」

「ふふ……これ以上やると君、壊れちやうから今日はこれで許してあげる♪ プロになれたらご褒美あげるから頑張つてね」

※色っぽく

「帰つて今日の事思い出して……しゃダメだよ……ふふ……じゃーね♪」